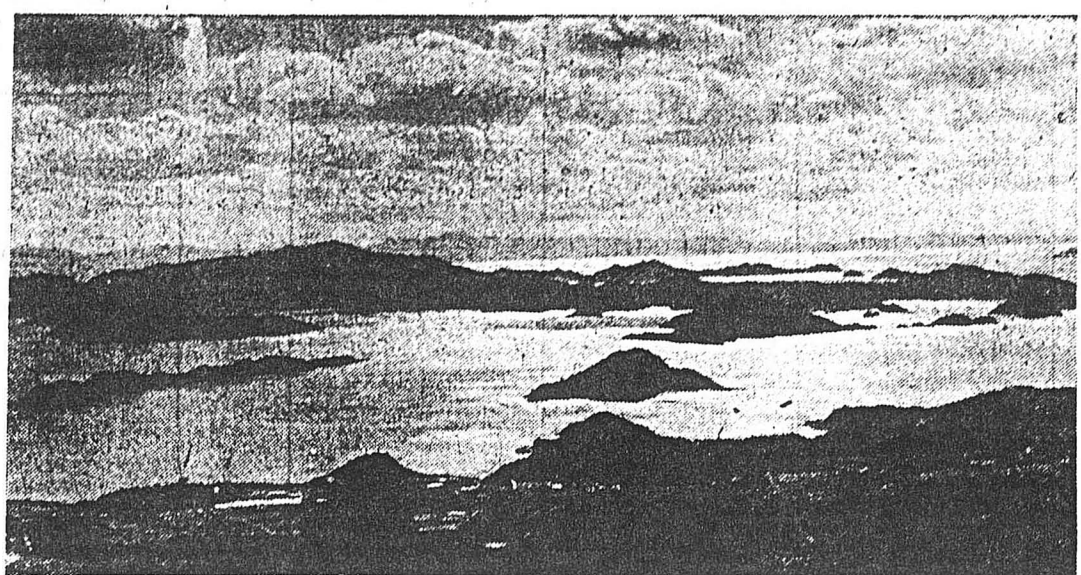


倉岳山上からみた御所浦町の島々



隠れ水俣病

きょうから御所浦町で検診

「隠れ水俣病」の調査として注目されている熊本県・水俣病研究班(代表・武内忠男、病理学教授)の犬蔵御所浦町の住民検診が十四日から同町嵐口で始まる。

嵐口の1500人対象に

疫学調査の第1弾

大 熊
班 研

今回の調査は研究班のトップを切つて行なわれる疫学調査(モデル地区調査)の第一弾で、きょうから十六日まで、アンケートによる予備調査をしたあと二十一日から二十九日まで住民の健康調査が行なわれる。

今回の調査は熊本公立衛生学教室(野村茂教授)が中心になって行ない、乳児、幼児、成人の三種のアンケート用紙によって嵐口地区住民千五百人を対象に調べる。アンケートは成人の場合「手足がしびれることがあるか」「字を書く時やハシを持つ時手がふるえるか」「星が見えにくい」など健康状態について五十項目。「魚介類を食べたか」「三十年から三十五年ごろ飼った犬が狂死したことがあるか」など食事や嗜好について七項目にわたって水俣病との関連をたてており、すでに十二日各町長を通じて住民に配布、十四日から回収を始める。

予備調査のあと、研究班では千五百人の嵐口地区住民の健康調査

「住民検診」を行なう方針で、これには精神神経科、第一内科、小児科、眼科も協力する。この検診、さらには疑似患者の精密検査によって、果たして有機水銀中毒が水俣病周辺だけでなく、対岸の御所浦島にまで及んでいるかが明らかになるわけで、県をはじめ各方面から研究結果に強い関心が寄せられている。

同じモデル地区調査を引き続き九月二日から水俣市の湯島、月の浦、出月三地区でも行なわれることになるっており、この研究で「隠れ水俣病」の患部は果の一斉検診前にかなり明らかになるものとみ

られる。

研究班では嵐口地区の住民検診を行なうことで、これまで表面的には水俣病との関連はないとされていた御所浦島の住民を調査したくないとして、これまで町当局、漁協関係者と折衝を重ねてきたが、協力を得られるメドがついたとして、当初予定していた水俣市の調査に先立って調査に臨み切つた。

武内研究班代表の語、本格的な疫学調査に着手できてホッとしている。とくに御所浦島については影響を心配して使われてきたが、町当局の協力が得られ、住民も協力的で十分な調査ができそうだ。ただ水俣病調査といっても十年前のことを調べるのだから、マ

スコミはあまりセンセーショナルな見方をしてほしくない。